［年度］平成２４年度和歌山県農林水産試験研究成果情報
［成果情報名］トマト夏秋栽培での優良品種とマルチ、遮光資材による高品質化

［要約］県内準高冷地における簡易雨よけを利用した夏秋トマト栽培には、糖度が高く裂果の少ない「みそら６４」や「桃太郎サニー」が適している。また、畝間に透湿性シート（タイベック）を敷設することで果実糖度が上昇するとともに裂果がやや減少し、簡易な雨よけハウスのフィルム上部に遮光資材（クールホワイト 520SW）を被覆することで日焼け果や裂果の発生を抑制できる。

［キーワード］トマト、夏秋栽培、品種、タイベック、遮光
［担当機関名］農業試験場・栽培部　［連絡先］0736-64-2300
［専門分野］野菜　［分類］普及

［背景・ねらい］
県内準高冷地（有田川町生石地区）では、簡易雨よけを使った夏秋トマト産地が形成されている。近年の栽培品種の変化や気象変動の拡大により、裂果の多発や糖度不足が問題となり、優良な高糖度品種や安定栽培技術が望まれている。ここでは、夏秋栽培用優良品種の選定と畝間へのタイベック敷設や簡易な雨よけハウスのフィルム上部への遮光資材の被覆がトマト品質に及ぼす影響について検討した。

［成果の内容・特徴］
１．トマトの裂果は、「みそら６４（みかど協和)」、「麗夏（サカタのタネ)」、「桃太郎サニー（タキイ種苗)」、「CF 桃太郎ヨーク（タキイ種苗)」の順に少なく、「りんか 409（サカタのタネ)」は最も発生が多い。「りんか 409」と比べて、「麗夏」は果実糖度が低く、「CF 桃太郎ヨーク」は収量が少ない。「みそら６４」と「桃太郎サニー」は「りんか 409」と比べて、株当たり収量および果数、平均果重は同等であるが、糖度が高い（図１)。
２．タイベックマルチを畝間に敷設することで、平均果重が小さくなるものの果実糖度が高く、裂果はやや減少する（図２)。
３．簡易な雨よけハウスのフィルム上部に遮光資材（クールホワイト 520SW：遮光率 35～40%）を被覆することで、被覆下の日中の気温上昇を抑制し（データ略)、日焼け果や裂果の発生を抑制する（図３)。

［成果の活用面・留意点］
１．本成果は、準高冷地での夏秋簡易雨よけハウス栽培に適応する。
２．タイベックを畝間に敷設する際には、雨水が圃場内に溜まらないように排水路の確保に留意する。
３．畝間に敷設するタイベックは、10a 当り約 13 万円、簡易な雨よけハウスのフィルム上部に被覆するクールホワイト 520SW は、10a 当たり約 20 万円である。

［具体的データ］

表１　夏秋栽培用トマト品種の収量と果実品質

品種	株当たり収量 (kg/株)	果数 (果/株)	平均一果重 (g/個)	平均糖度 Brix (%)	裂果率 (%)
みそら64	4.45	29.8	149	6.29	2.8
麗夏	4.59	30.7	149	5.88	3.3
桃太郎サニー	4.35	29.2	146	6.33	4.0
CF桃太郎ヨーク	3.85	26.2	147	6.21	5.9
りんか409(対照)	4.39	30.4	145	6.05	9.0

注）播種：2012 年 3 月 30 日、接木：4 月 26 日、台木：助人、定植：6 月 1 日
畝幅：160cm、２条植え、簡易雨よけあり、栽培場所：有田川町生石地区、
収穫調査期間：７月 18 日～11 月 29 日
※全データについて 3S 未満の小果は除外した。
栽培管理は現地慣行に準じて行った。

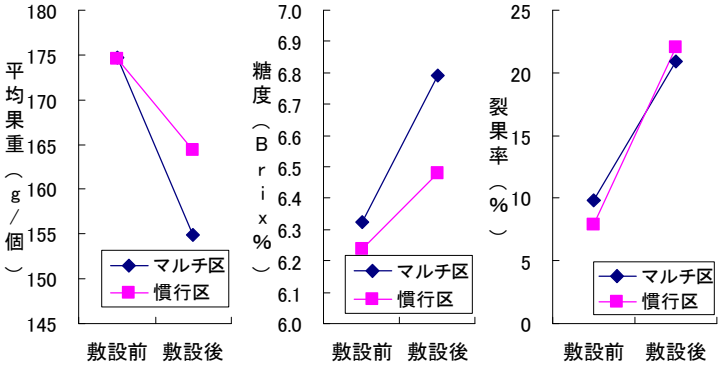

図１　タイベックマルチの畝間敷設がトマトの果実品質と裂果の発生に及ぼす影響
注）タイベックマルチ敷設：2012 年 8 月 19 日、タイベックソフト（幅 150cm）を敷設、簡易雨よけあり
品種：りんか 409、試験地：有田川町生石地区
※調査期間：処理前：7 月 24 日～8 月 19 日
処理後：8 月 20 日～11 月 29 日

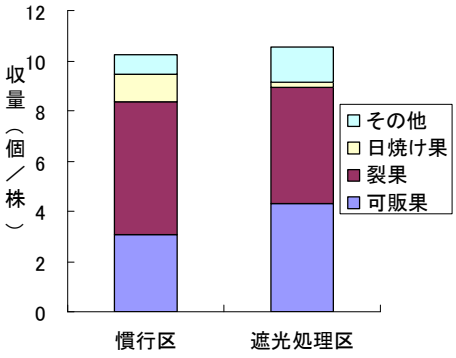

図２　簡易雨よけ上部への遮光資材の被覆が果実品質に及ぼす影響
注）慣行：簡易雨よけのみ
遮光処理区：簡易雨よけ＋遮光処理
遮光資材：クールホワイト 520SW
遮光資材被覆：2012 年 7 月 23 日
品種：りんか 409、
試験場所：農業試験場内ほ場
調査期間：8 月 2 日～9 月 3 日

［その他］

研究課題名：おひさまとまとの安定栽培技術の確立

予算区分：新農林水産業戦略プロジェクト推進事業「高糖度トマト（おひさまとまと）のブランド育成と販路拡大」

研究期間：平成 23 年～24 年

研究担当者：東卓弥、奥野直行※、小泉拓也※、林孝史※、村上豪完※
（※有田振興局農業振興課）

発表論文等：なし

HP 掲載の可否：可